

戸田建設

契約の種類：アニュアルレビュー

日付：2018年11月30日

担当者：Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4510 7979

はじめに

2017年12月、戸田建設は、長崎県五島市崎山沖に設置する浮体式洋上風力発電施設建設のための資金調達を目的として、グリーンボンドを発行しました。2018年11月、戸田建設はサステナリティクスとの間で、発行済みグリーンボンドによる調達資金を充当したプロジェクト（候補のプロジェクト）のレビュー、また当該プロジェクトが戸田建設グリーンボンドフレームワーク（2017年10月策定）に示された、調達資金の使途のクライテリア及びレポーティングに関する基準を満たしているか評価する契約を結びました。¹

評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2017年と2018年に資金提供を受けたプロジェクトを評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークに示された調達資金の使途及び適格クライテリアへの適合
2. グリーンボンドフレームワークに示された各調達資金使途クライテリアに対する主要業績評価指標（KPI）の少なくともひとつに関する報告

表1は調達資金の使途、適格クライテリア、また関連するKPIのリストです。

表1：調達資金の使途及び適格クライテリア

調達資金の使途	適格クライテリア	主要業績評価指（KPI）
再生可能エネルギー（洋上風力発電）	<ul style="list-style-type: none"> 五島市沖洋上風力発電事業（長崎県五島市崎山沖）における浮体式洋上風力発電施設の建設に関連する支出。 	<ul style="list-style-type: none"> 建設された風力発電機の数及び風力発電機の出力 適格プロジェクトによるカーボンオフセット量（入手可能データによる）

¹ 戸田建設グリーンボンドフレームワークには以下のホームページからアクセスできます。

https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2017/10/Toda-Corporation_Green-Bond-Framework-and-Opinion_Japanese_final.pdf

発行体の責任

戸田建設は、プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトが環境に及ぼす影響を含め、資金提供を受けたプロジェクトの詳細に関連する正確な情報及び書類を提出する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に ESG とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、戸田建設のグリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として行った作業では、同社のグリーンボンドフレームワークと合致しているか検討するために、戸田建設の従業員からの文書の収集及び検証を行いました。

サステナリティクスは候補のプロジェクトに関して、戸田建設が提示した情報及び事実を信頼しています。戸田建設が不正確もしくは不完全なデータを提示したことにより、ここに記したオピニオン、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負うものではありません。

評価プロセスにおいて、サステナリティクスは、高い品質と厳密さを実現すべく努力し、また社内のサステナビリティボンドレビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）にレビューの評価に関する監督が実施されています。

結論

2018年3月、戸田建設は洋上風力発電施設の機材等の調達に着手しました。施設が建設されていないため、同社がプロジェクトのKPIを測定することはまだできない状態であり、本レビューの時点では公開すべきいかなる環境への影響も存在しません。しかし守秘義務契約に基づき、戸田建設は今までの調達資金充当状況の詳細をサステナリティクスと共有しています。調達資金を審査したところ、充当された調達資金はプロジェクトに関連する風力発電機、浮体、送電網その他を含めた風力発電施設に支出されていることが確認できました。

限定保証プロセスに基づき検討したところ、²すべての関連資料において、戸田建設グリーンボンドによる調達資金を充当した調査対象のグリーンボンドプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで述べられた調達資金の使途及びレポーティングの基準に合致していないと確信させるものは一切ありませんでした。

²サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体が提供するところの、資金を充当したプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトが環境に与える影響を含む）の調査があります。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は行っていません。

免責事項

© Sustainalytics 2018 無断複写・複製・転載を禁ず

このセカンドパーティ・オピニオン（以下「オピニオン」）に関する知的財産権はすべてサステイナリティクスに帰属します。サステイナリティクスの書面による事前の許可がない限り、本オピニオンのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音、その他の形式・手段を問わず、複写・転載・公開すること、二次的著作物の作成、形式を問わず第三者に提供すること、又は本書の一部や本書の内容を公表することはできません。またオピニオンの対象となる「グリーンボンドフレームワーク」を伴うことなく、公開することもできません。

本「オピニオン」は、特定の投資家を対象とせず、一般の投資家向けに、分析対象の債券が持続可能かつ責任あるものだと考えられる理由を述べるために作成されました。従って、本「オピニオン」は情報提供のみを目的とするものであり、サステイナリティクスは「オピニオン」の内容についてのいかなる形の賠償責任も、「オピニオン」やそこに含まれる情報の利用に起因する損害に関する賠償責任も認めることはありません。

本「オピニオン」はクライアントから提供された情報に基づいて作成されているため、サステイナリティクスは本「オピニオン」に提示された情報の完全性、正確性及び最新性を保証することではなく、また誤記脱漏に対する責任を負うこともしません。引用している第三者名は、情報の出所を示すものであり、かかる情報所有者によるスポンサーシップ又は推奨とはならないことにご留意ください。

本「オピニオン」に記載されたいかなる内容も、明示黙示を問わず、企業への投資の可否、又は投資可能ユニバース／ポートフォリオへの組み入れの可否についての表明や保証とみなすことはできません。さらに本「オピニオン」はいかなる場合も、債券の経済的パフォーマンスや信用力の評価と解釈することはできず、また債券による調達資金の効果的な充当を扱ったものと解釈することもできません。

クライアントは、自身のコミットメントの遵守、実施及びモニタリングに関する実証及び遂行に対して全ての責任を引き受けるものとします。

英語版とその他の言語版の間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先するものとします。

サステイナリティクスについて

サステイナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステイナリティクスは世界各地に 13 のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESG に関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30 か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステイナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。また、サステイナリティクスは Global Capital 社により「2017年もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018年には、Climate Bonds Initiative 団体及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定されました。サステイナリティクスは、2018年に、日本のグリーンボンド市場の成長に対する弊社の貢献が認められ、一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞しております。

詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照、又は

info@sustainalytics.com にご連絡下さい。

